様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	神戸女学院大学
設置者名	学校法人神戸女学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
文学部	英文学科	~~夜・通信~~	13	0	0	13	13	
	総合文化学科	~~夜・通信~~	0		14	14	13	
音楽学部	音楽学科	~~夜・通信~~	14	0	0	14	13	
人間科学部	心理・行動科学科	~~夜・通信~~	0	0	14	14	13	
	環境・バイオサイエンス学科	~~夜・通信~~	2		12	14	13	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kobe-c.ac.jp/application/files/1916/5456/0820/jitsumukakyoinkamoku2022.pdf

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）　なし

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	神戸女学院大学
設置者名	学校法人神戸女学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/chancellor/meibo.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	公認会計士・税理士	平成 29.4.1～ 令和 7.3.31	財務、中長期
非常勤	企業（繊維・化学品） 常務理事	平成 15.4.1～ 令和 5.3.31	施設、中長期
非常勤	牧師	平成 27.4.1～ 令和 5.3.31	法制、人事
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	神戸女学院大学
設置者名	学校法人神戸女学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

① 教務課より各授業担当教員宛に例年１月の指定期間中に、所管の委員会にて承認された次年度開講科目について、シラバスの作成を依頼している。なお、各担当教員にはシラバスの各記載事項について、留意点等詳細を記した書面を配付し、学生にとって履修における基本的な指針となるシラバスを作成してもらうよう、周知徹底している。

② 各担当教員によるシラバス作成後は、各立案部署（学科・委員会等）が主体となり、「各記載事項の内容が適正かどうか」「教員間で精粗が生じていないかどうか」等の確認事項に基づき、シラバスの第３者によるチェックを実施、運用している。

③ 前項②の確認（チェック）完了後は、例年３月下旬頃にシラバスを公表している。４月からの履修登録や授業開始にあたり、学生が履修や学修の計画を早い段階で立てられるようにするためである。

授業計画書の公表方法	https://kclip.kobe-c.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

① 各授業科目の平常成績と定期試験成績を総合し、各学期末（通年科目は学年末）に成績を評価している。成績は原則として 100 点を満点とする採点法（以下、100 点採点法という。）によるものとし、60 点以上を合格、59 点以下は不合格とする。合格した科目に対して所定の単位を与える。

② 前項①の「成績評価の基準及び 100 点採点法の目安」は、下記の通り規定。評価基準については、全ての教員に対して毎学期、試験や成績報告等に関する配付文書に記載の上周知しており、一方在学生に対しては「学修便覧・開講科目表」に記載の上、周知している。

合　否	100 点採点法の目安	評　価　基　準
合　格	100～90	特に優れた成績である。
	89～80	優れた成績である。
	79～70	妥当と認められる成績である。
	69～60	合格と認められる最低限度の成績である。
不合格	59～0	合格と認められるに足る成績ではなかった。
	F	評価不能のため不合格。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

① 成績評価における客観的な指標として GPA を設定し、最新「学期 GPA」及び入学以来の「通算 GPA」を算出する。

② GPA の算出方法については、前述の 100 点採点法の目安に基づき、「4 ポイント：100～90 点、3 ポイント：89～80 点、2 ポイント：79～70 点、1 ポイント：69～60 点、0 ポイント：59～0 点または F」と定め、下記の計算式により GPA を算出する（小数点以下第二位を四捨五入）。

$$\frac{\text{４ポイントに相当する授業科目の単位数} \times 4 + \text{３ポイントに相当する授業科目の単位数} \times 3 + \text{２ポイントに相当する授業科目の単位数} \times 2 + \text{１ポイントに相当する授業科目の単位数} \times 1}{\text{登録単位数（不合格科目を含む）}}$$

③ 前項①②に係る内容は、全学生に配布する「学修便覧・開講科目表」に掲載の上、周知していると共に、本学ホームページにおいても広く公表している（※以下、URL 参照）。

④ 前項①で述べた「学期 GPA」と「通算 GPA」については、毎学期の授業終了後に送付する成績通知書に付記し、在学生及び第一保証人に対して通知している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	本学ホームページに公表 https://www.kobe-c.ac.jp/about/kokai/kyoiku-info/seisekihyokakijun
卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ホームページに公表 https://www.kobe-c.ac.jp/about/policy/statement

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 神戸女学院大学は、キリスト教主義の伝統ある女性高等教育機関として、学院標語「愛神愛隣」に基づいて、置かれた場で時代の潮流に流されることなく利害を超えて自らの役割を果たす、他者と深く共感する人格を養成します。 そのために、カリキュラム・ポリシーにおいて定めた「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」の教育の三つの柱を具現化すべく、以下の七つの力を備えた人格を養成するように努め、それを修得し卒業要件を満たした人に対して学士の学位を授与します。 １．愛と奉仕の精神：自分を深め、人に尽くす大切さを理解する。隣人を愛し、隣人に共感して行動することができる。社会の一員としての高い倫理的意識を備え、より善い社会の実現のために働くことができる。 ２．豊かな感受性：知的、感情的、美的なものに対する感性や理解を高めるとともに、社会性・社会的関心を高くもち、文化・社会・自然の多様性を理解し、受容することができる。 ３．論理的思考力：論理的に自分の考えを構築して表現できる。プレゼン等を通して、客観的で説得力ある意見を述べることができる。 ４．コミュニケーション力：異なる見解や他者の立場を尊重し、対話を重んじて自分の意見を伝えることができる。自分のリーダーシップや調和力を高め、チームワークを向上させることができる。 ５．専門的知識と技能：専門的な考え方、見方ができる、専門的なパフォーマンスができる。複数分野の専門知識とあわせて、多角的に問題を発見し、分析し、解決することができる。 ６．創造力と企画力：偏見から自由で、柔軟な思考ができる。新たな発想を持ち、展開していくことができる。 ７．主体的に学び続ける力：自立と自律の心構えをもち、自己を管理して、上達目標を定めて粘り強く学ぶことができる。資料収集・読解を自ら進んで行うことができる。 上記の能力を修得したことを示すため、卒業研究・演奏等については学内発表することが求められます。

卒業の認定に関する方針の公表方法	本学ホームページに公表 https://www.kobe-c.ac.jp/about/policy/statement

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	神戸女学院大学
設置者名	学校法人神戸女学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
財産目録	https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
事業報告書	https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html
監事による監査報告（書）	https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2022 年度事業計画　　対象年度：2022　）
公表方法：https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html　事業報告書の後半ページに記載
中長期計画（名称：2021-2025 年度中期計画　対象年度：2021-2025　）
公表方法：https://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html　事業報告書の後半ページに記載

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：本学ウェブサイトに公表 https://www.kobe-c.ac.jp/about/organizations/fd-center/fd-report

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/about/kokai/juaa

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　文学部、音楽学部、人間科学部
教育研究上の目的（公表方法： 本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/about/policy/statement）
（概要） 神戸女学院大学は、「リベラルアーツ教育」、「国際理解の精神」、「キリスト教主義」の三本の教育の柱(https://www.kobe-c.ac.jp/about/outline/idea)を掲げ、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指すことを教学上の目的とします。
卒業の認定に関する方針（公表方法： 本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/about/policy/statement）
（概要） 神戸女学院大学は、キリスト教主義の伝統ある女性高等教育機関として、学院標語「愛神愛隣」に基づいて、置かれた場で時代の潮流に流されることなく利害を超えて自らの役割を果たす、他者と深く共感する人格を養成します。 そのために、カリキュラム・ポリシーにおいて定めた「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」の教育の三つの柱を具現化すべく、以下の七つの力を備えた人格を養成するように努め、それを修得し卒業要件を満たした人に対して学士の学位を授与します。 １．愛と奉仕の精神：自分を深め、人に尽くす大切さを理解する。隣人を愛し、隣人に共感して行動することができる。社会の一員としての高い倫理的意識を備え、より善い社会の実現のために働くことができる。 ２．豊かな感受性：知的、感情的、美的なものに対する感性や理解を高めるとともに、社会性・社会的関心を高くもち、文化・社会・自然の多様性を理解し、受容することができる。 ３．論理的思考力：論理的に自分の考えを構築して表現できる。プレゼン等を通して、客観的で説得力ある意見を述べることができる。 ４．コミュニケーション力：異なる見解や他者の立場を尊重し、対話を重んじて自分の意見を伝えることができる。自分のリーダーシップや調和力を高め、チームワークを向上させることができる。 ５．専門的知識と技能：専門的な考え方、見方ができる、専門的なパフォーマンスができる。複数分野の専門知識とあわせて、多角的に問題を発見し、分析し、解決することができる。 ６．創造力と企画力：偏見から自由で、柔軟な思考ができる。新たな発想を持ち、展開していくことができる。 ７．主体的に学び続ける力：自立と自律の心構えをもち、自己を管理して、上達目標を定めて粘り強く学ぶことができる。資料収集・読解を自ら進んで行うことができる。 上記の能力を修得したことを示すため、卒業研究・演奏等については学内発表することが求められます。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： 本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/about/policy/statement）
（概要） 神戸女学院大学は、ディプロマ・ポリシーに定めた人格を養成するために、「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」を教育の三つの柱に据え、以下の方針に基づいた科目編成による教育課程を編成します。 １．学生が専門的知識を習得する各分野の専門科目を体系的に編成すること（「メジャー科目」） ２．学生が他学科の専門科目を体系的に学べるようカリキュラムを編成すること（「オープン科目」「マイナー科目」） ３．様々な分野の学生同士の交流、学外の人々との協力を促す科目を設定すること（「クローバーゼミ」、「プロジェクト科目」など） ４．国際理解や国際協調のために必要な英語やそのほかの外国語の科目を設定すること（英語やその他の外国語科目） ５．社会に貢献するために必要なキリスト教精神を育み、心身を鍛え、言語・数理・情報を駆使する能力を養成する科目を設定すること(「コア科目」) ６．単なる職業上のキャリアにとどまらず、「人が生涯を通じて行う仕事の総体」としてキャリアを理解し、その意味でのキャリア形成に役立つ科目を設定すること（キャリア系科目） 上記方針に基づく科目編成においては、体系性・系統性の理解を促すため、学問分野、科目間の連携や科目内容の難易度を表す科目番号および、必修科目、選択必修科目、選択科目などについての科目記号を学修便覧等につけ、なおかつ、教育課程の構造をカリキュラム・マップやカリキュラム・ツリーで分かりやすく明示します。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： 本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/about/policy/statement）
（概要） 本学のミッションステートメントとカリキュラム・ポリシー、及び希望する学科・専攻の教育目標・教育内容をよく理解し、大学における教育課程を履修するために必要な、高等学校卒業に相当する学力の 3 要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）を備えた人を受け入れます。とりわけ、以下にあてはまる人を歓迎します。 １．自分で決めた目標に対して自ら行動したい人 ２．専門的知識を深く学びたい人 ３．現代社会の課題に強い関心があり、複合的な視点から取り組みたい人 ４．多種多様な人とコミュニケーションし、世の人々のために尽したい人 本学の教育を深く理解し、主体的に学びたい人を受け入れるために学校推薦型選抜、推薦入学試験を実施します。多様な才能と経験を持つ人を受け入れるために総合型選抜、帰国子女入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学試験、編入学試験(3 年次)を実施します。基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を備えた人を広く受け入れるために一般選抜(前期日程、後期日程)、大学入学共通テストを利用する入学試験(前期日程、後期日程)を実施します。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： 本学ウェブサイトに公表 https://www.kobe-c.ac.jp/about/kokai/kyoiku-info/kyouinsu

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	2 人	－					2 人
文学部	－	19 人	16 人	3 人	0 人	0 人	38 人
音楽学部		8 人	5 人	3 人	0 人	0 人	16 人
人間科学部	－	18 人	6 人	3 人	0 人	0 人	27 人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	413 人	413 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.kobe-c.ac.jp/about/organizations/fd-center/fd-tae

c. ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/about/organizations/fd-center/fd-workshop

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
文学部	350 人	255 人	72.9%	1,400 人	1318 人	94.1%	0 人	0 人
音楽学部	40 人	39 人	97.5%	180 人	170 人	94.4%	2 人	1 人
人間科学部	176 人	159 人	90.3%	686 人	742 人	108.2%	0 人	0 人
合計	566 人	453 人	80.0%	2,266 人	2,230 人	98.4%	2 人	1 人

（備考）

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
文学部	372 人（100%）	12 人（3.2%）	323 人（86.8%）	37 人（9.9%）
音楽学部	23 人（100%）	3 人（13.0%）	16 人（69.6%）	4 人（17.4%）
人間科学部	188 人（100%）	21 人（11.2%）	148 人（78.7%）	19 人（10.1%）
合計	583 人（100%）	36 人（6.2%）	487 人（83.5%）	60 人（10.3%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/shushoku/data/recruit/index.html

（備考）

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
合計	人 （100%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）	人 （　　%）
（備考）					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

① 教務課より各授業担当教員宛に例年１月の指定期間中に、所管の委員会にて承認された次年度開講科目について、シラバスの作成を依頼している。なお、各担当教員にはシラバスの各記載事項について、留意点等詳細を記した書面を配付し、学生にとって履修における基本的な指針となるシラバスを作成してもらうよう、周知徹底している。

② 各担当教員によるシラバス作成後は、各立案部署（学科・委員会等）が主体となり、「各記載事項の内容が適正かどうか」「教員間で精粗が生じていないかどうか」等の確認事項に基づき、シラバスの第３者によるチェックを実施、運用している。

③ 前項②の確認（チェック）完了後は、例年３月下旬頃にシラバスを公表している。４月からの履修登録や授業開始にあたり、学生が履修や学修の計画を早い段階で立てられるようにするためである。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）

① 学修の成果に係る評価の基準に関しては、下記の通りである。

「成績評価の基準及び 100 点を満点とする採点法の目安」について、以下の通り規定している。

合　否	100 点採点法の目安	評　価　基　準
合　格	100～90	特に優れた成績である。
	89～80	優れた成績である。
	79～70	妥当と認められる成績である。
	69～60	合格と認められる最低限度の成績である。
不合格	59～0	合格と認められるに足る成績ではなかった。
	F	評価不能のため不合格。

② 卒業又は修了の認定に当たっての基準に関しては、下記の通りである。

キリスト教主義の伝統ある女性高等教育機関として、学院標語「愛神愛隣」に基づい

て、置かれた場で時代の潮流に流されることなく利害を超えて自らの役割を果たす、他者と深く共感する人格を養成する。

そのために、カリキュラム・ポリシーにおいて定めた「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」の教育の三つの柱を具現化すべく、以下の七つの力を備えた人格を養成するように努め、それを修得し卒業要件を満たした人に対して学士の学位を授与する。

1．愛と奉仕の精神：自分を深め、人に尽くす大切さを理解する。隣人を愛し、隣人に共感して行動することができる。社会の一員としての高い倫理的意識を備え、より善い社会の実現のために働くことができる。
2．豊かな感受性：知的、感情的、美的なものに対する感性や理解を高めるとともに、社会性・社会的関心を高くもち、文化・社会・自然の多様性を理解し、受容することができる。
3．論理的思考力：論理的に自分の考えを構築して表現できる。プレゼン等を通して、客観的で説得力ある意見を述べることができる。
4．コミュニケーション力：異なる見解や他者の立場を尊重し、対話を重んじて自分の意見を伝えることができる。自分のリーダーシップや調和力を高め、チームワークを向上させることができる。
5．専門的知識と技能：専門的な考え方、見方ができる、専門的なパフォーマンスができる。複数分野の専門知識とあわせて、多角的に問題を発見し、分析し、解決することができる。
6．創造力と企画力：偏見から自由で、柔軟な思考ができる。新たな発想を持ち、展開していくことができる。
7．主体的に学び続ける力：自立と自律の心構えをもち、自己を管理して、上達目標を定めて粘り強く学ぶことができる。資料収集・読解を自ら進んで行うことができる。

上記の能力を修得したことを示すため、卒業研究・演奏等については学内発表することが求められる。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
文学部	英文学科	128 単位	有	24 単位
	総合文化学科	128 単位	有	24 単位
音楽学部	音楽学科	128 単位	有	24 単位
人間科学部	心理・行動科学科	128 単位	有	24 単位
	環境・バイオサイエンス学科	128 単位	有	24 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：本学ウェブサイトに公表　https://www.kobe-c.ac.jp/campuslife/map

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料（年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	英文学科	916,000 円	200,000 円	1,133,000 円	「その他」は教育充実費・寮費・休学中の在籍料の合計
	総合文化学科	916,000 円	200,000 円	1,133,000 円	「その他」は教育充実費・寮費・休学中の在籍料の合計
音楽学部	音楽学科	1,371,000 円	200,000 円	1,483,000 円	「その他」は教育充実費・寮費・休学中の在籍料の合計
人間科学部	心理・行動科学科	978,000 円	200,000 円	1,169,000 円	「その他」は教育充実費・寮費・休学中の在籍料の合計
	環境・バイオサイエンス学科	978,000 円	200,000 円	1,169,000 円	「その他」は教育充実費・寮費・休学中の在籍料の合計

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）
学生生活支援センターは、学生が学修を行う上で抱える困難に対して相談に応じ、必要があれば学生主事、各学科事務室、教務課、保健室、カウンセリングルーム他と連携し支援を行っている。また、障がい学生支援室では、神戸女学院大学「障がい学生支援に関する基本方針」に従い、障がいのある学生への必要な支援を行っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）
キャリアセンターでは、社会で活躍する女性を輩出していくため、以下の三つの柱を中心にキャリアサポートを行っている。

1. 学ぶ場・知る場を数多く提供（毎年 130 回を超える講座やセミナーを実施）
2. 企業との強い関係づくりに注力（卒業生を多数採用いただいた企業を中心に採用側との関係づくりに力を入れている。毎年学内での企業セミナー等に協力いただいている企業は延べ 100 社以上）
3. 個別対応を最重要視（「キャリア」や進路に関する相談から具体的な企業・業界情報の提供や求人案件の紹介まで幅広く対応）

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）
カウンセリングルームでは学生が当面する様々な問題について、臨床心理士資格を持つカウンセラーが専門的な立場から相談に応じ、学生が有意義で充実した学生生活を送れるように支援している。個別面接だけでなく、さまざまなグループプログラムを企画実施し、学生の居場所支援としてサロン室を提供している。また、保健室では、校医、看護師が学生のさまざまな心身のトラブルの相談に応じている。これらの支援は、必要に応じて個人情報に配慮しつつ、学内他部署との連携システム「学生支援ネットワーク」で学生への対応について検討し、教育的視点から学生への支援を心がけている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学ウェブサイトに公表
https://www.kobe-c.ac.jp/about/organizations/fd-center/fd-tae